

怒り列島うねる

議論封じた強行採決

ヤジと怒号が響く中、戦後の安全保障政策を大きく変える法案が可決された。15日の衆院特別委員会採決が強行された安保関連法案。「危うい」「説明が足りない」――。抗議の意思を示すとする人波が国会へ向かい、その輪は各地へ広がった。



国会前のデモには大勢の人が参加し、安保関連法案の強行採決に対して抗議の声をあげた。15日午後7時10分、竹花徹朗撮影

可決から数時間が過ぎた国会の正門前。仕事を終えたサラリーマンや親子連れらが集まり、歩道は人波で埋まった。主催者側は「約2万5千人が訪れた」と発表。午後6時半、「9条守れ」「安倍政権の暴走止めろ」というシュプレヒコールが上がった。

警備員として働く半沢英雄さん(68)は、娘夫婦と孫の3世代で参加。採決を知って「何か行動しなくては」と駆けつけたといひ、「生きてきた中で政治が一番危うい状況にある」と話した。大

学3年の木村茜さん(21)は友人を誘って参加し、「おかしいと思ってる友人は多い」。次の選挙は行くつもりだ。

大阪・キタのJR大阪駅北側では、午後7時ごろから学生らでつくる「SEALDs KANSAI」主催の緊急行動が始まった。約2700人にとつたという群衆の中に、来年夏の参院選から選挙権を持つ18歳の若者もいた。

京都造形芸術大1年の坂本森海さんは可決されたことに憤りつつ、「国民が政治に参加してこなかった責任もあるのではないのでしょうか。安倍政権に矛先を向けるだけではないかと思えます」。神戸女学院大2

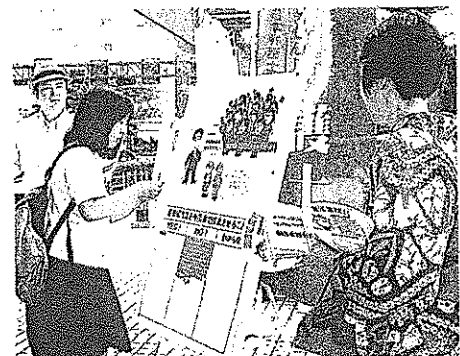
年の山口晶子さん(19)は初めて街宣カーの上でマイクを握り、決意を語った。「いまこそ声を上げましょう。主権は私たちのものです。未来は私たちの手でつくるものです」

抗議集会などに参加してない18歳も、様々な思いで採決と向き合った。可決をインターネット動画で知った同志社大1年の八幡将大さんは「秘密法の時と同じ光景。国民の多くが納得していない中での採決に違和感を覚えました」。京都大1年の多胡優作さんは「選挙という民主主義のプロセスを踏んだ政権とはいえ、強硬さが目立つ。こういうやり方は疑問」と語った。

買い物客らが行き交う神戸市の繁華街。護憲団体や労組などの呼びかけで約140人が百貨店前に集まった。和田進・神戸大名誉教授(憲法学)はマイクを持ち、「憲法学者の多数が違

憲と指摘し、世論調査でも多くの国民が反対している中での採決」と述べた。被爆地・広島市。採決のあと、約1300人が原爆ドーム前で「強行採決を許さぬ」と書かれた横断幕を掲げた。被爆2世の川后和幸さん(64)は「世界は核兵器廃絶を訴える広島姿勢

を見ている。国内外の人々に「被爆地は戦争立法を許さない」という姿を見てほしい」と力を込めた。安倍晋三首相の地元・山口県下関市でも約40人が首相の事務所前で抗議。神父の林尚志さん(80)は「法案の必要性を国民に説明しきっていない」と批判した。



⑤ 今国会での安保法案成立の賛否を問う「街頭シール投票」もあった

＝15日午後3時59分、金沢市

⑥ 勤めを終えた人たちも加わり、繁華街を練り歩いた＝15日午後7時16分、奈良市



7/16 朝日